2019年度 当初予算

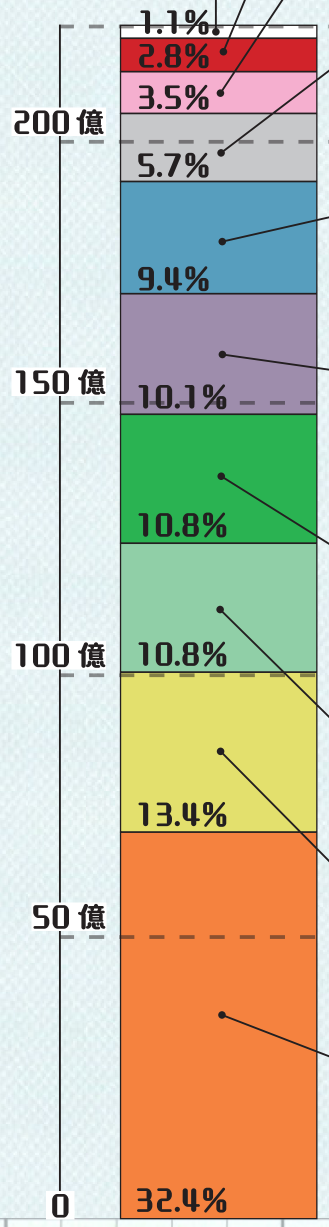
一般会計予算
222億1700万円
前年度当初比　13億4400万円の増（106.4%）

中野市の総人口
42664人
2019年3月1日現在

＝

市民1人当たりに使われる予算
52万743円

歳出



その他
2億5339万円

商工費
6億2099万円
観光施設や商工業の振興にかかる経費

消防費
7億8174万円
火災、水害などの災害から皆さんを守るための経費

農林水産業費
12億5848万円
農林水産業の振興、農道整備にかかる経費

衛生費
20億8386万円
予防接種などの健康管理やごみ処理などにかかる経費

土木費
22億5057万円
道路、公園、河川などの公共施設の整備や維持管理にかかる経費

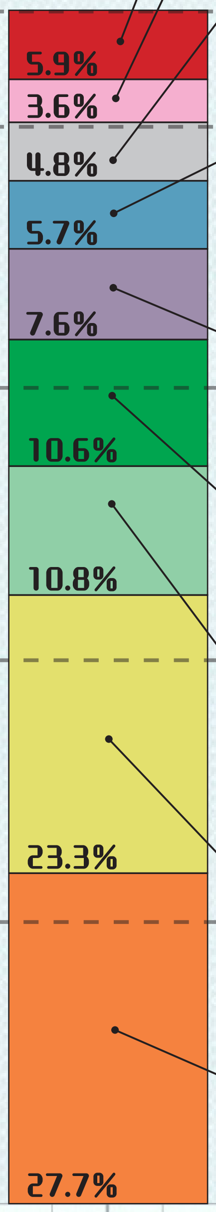
総務費
23億8841万円
市役所の管理、市税の徴収、戸籍などの市役所全般にかかる経費

公債費
23億9758万円
市債の返済にかかる経費

教育費
29億7438万円
学校の建設・管理、生涯学習などの教育行政にかかる経費

民生費
72億760万円
保育所の整備、児童や高齢者の支援、生活保護などにかかる経費

歳入



その他
12億9463万円

地方消費税交付金
8億200万円
皆さんが国に納める消費税の一部。一定の割合で交付

諸収入
10億7584万円
他の収入科目に含まれない収入。延滞金や預金利子など

県支出金
12億7035万円
皆さんが県に納める税金の一部。特定の目的を達成するために県から交付

繰入金
16億9062万円
各種基金（家庭でいう貯金）を取り崩して使うお金

市債
23億5240万円
事業を行うために国や銀行から借り入れるお金

国庫支出金
23億9236万円
皆さんが国に納める税金の一部。特定の目的を達成するために国から交付

地方交付税
51億8200万円
皆さんが国に納める税金の一部。地方公共団体の財政状況に応じて配分

市税
61億5680万円
皆さんが中野市に収める税金

total 合計 222億1700万円

一般会計

※1万円未満四捨五入のため、数値が一致しない場合があります。

自治体における予算とは、市民の皆さんの生活に係わるごみ処理や小・中学校の管理、公園の管理、道路の管理などに必要な「お金」をそれぞれ計算し、積み上げたもの。2019年度の中野市はどう運営されるのかという方針です。

本年度は、第2次中野市総合計画前期基本計画の4年目であり、また、中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略が最終年度の5年目を迎えます。本市の特徴を活かし、目指す姿である「住みよさで選ばれるまちへ」の実現に向けた各種施策を実施していきます。

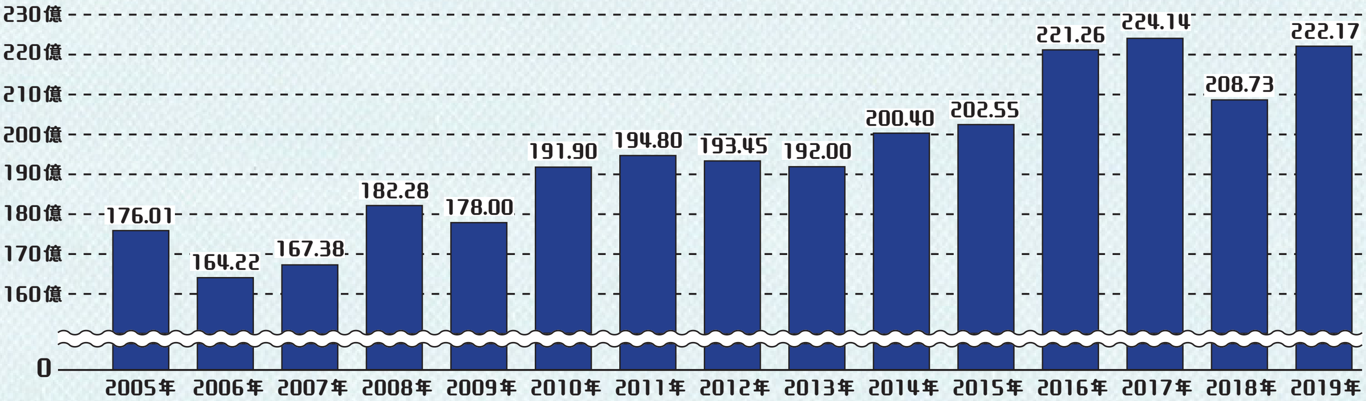
一般会計の歳入は、市民の皆さんに納めていただく税金や、市が国や銀行などから借り入れたお金で構成されています。本年度は、市税の農業所得の減少や企業業績の下振れによる減少が見込まれます。

歳出は、中野市の運営に必要な「事業」を民生費や総務費などに種別しています。本年度は、（仮称）中野市新平岡保育園の整備や小学校統合に向けた学校教育施設の整備にかかる経費の増加などが主な要因となり、前年度から6.4％増加していますが、市民の皆さんの安心・安全な暮らしと充実した保育・教育環境を実現するための予算としました。

▲2019年度予算の詳細は市公式ホームページに掲載しています

▲2019年度の主な事業は実施計画を参照してください

一般会計　当初予算額の推移



特別会計・企業会計

市が行う事業の大部分は一般会計で扱います。しかし、行政にかかる全ての経費を一つの会計で扱おうとすると、複雑で分かりにくくなります。そのため、特定の事業を行う特別会計や企業会計があります。

特別会計は、主に保険料や使用料などの収入で賄われます。企業会計は、事業で得る収入で支出を賄う独立採算型の会計になります。

会計名		予算額	前年度比
特別会計	国民健康保険事業	**49億8953万円**	2.0％減
	後期高齢者医療事業	**5億600万円**	1.1％増
	介護保険事業	**45億1328万円**	2.8％増
	倭財産区事業	**77万円**	1.3％増
	永田財産区事業	**39万円**	0.8％減
	中野財産区事業	**161万円**	5.6％減
	計	**100億1157万円**	0.3％増
企業会計	下水道事業	**41億6599万円**	6.4％増
	水道事業	**14億698万円**	4.5％減